

授業科目名	人体の構造と機能Ⅰ (総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系) (Structure and function of the human body Ⅰ)	必修：看1年	1単位15時間	担当教員名： 太和田 暁之[内科医師] (研究室：図棟9)、 加瀬政彦[医師] (研究室：教育棟A210)
		コード：NSM101		
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
看護職に必須な人体の構造と生理機能に関する知識を修得し臨床で応用できるよう以下を目標とする。 ①人体を構成する細胞～器官系の構造と機能、および遺伝と発生プロセスについて理解し説明できる。 ②外皮系の構造、および非特異的防御機能と免疫応答からなる生体防御機構を理解し説明できる。 ③摂食嚥下のしくみを含む消化器系の構造と機能について理解し説明できる。 ④呼吸器系の構造、呼吸運動とその調節機構およびガス交換のしくみについて理解し説明できる。				
〔授業の概要〕				
本授業は病態の理解の基本となる正常人体の構造と機能を講義形式で行なう。まず始めに人体を構成する細胞、組織、器官・器官系の構造と機能の概要、更に遺伝と発生のプロセス、生体防御機構等について学修する。生命活動が営まれるためには消化器系で体外から取り入れた栄養素と呼吸器系で体外から取り入れた酸素が必要となる。本授業では、口腔器よりはじまる消化器の構造と機能を学修するとともに、生命維持に不可欠な外呼吸・内呼吸の行うための構造および呼吸運動の調節機構について講義し理解を深める。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード:細胞・組織・器官、細胞分裂と発生、生体防御機構、消化器系、呼吸器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	4/15	総論、ヒトの発生	細胞の構造と機能、組織・器官・器官系、植物機能と動物機能、ゲノムと遺伝のしくみ、細胞周期、細胞分裂、発生プロセス	太和田暁之
第2回	4/22	外皮系と生体防御機構1	外皮(皮膚・粘膜)の構造と機能、免疫応答のしくみ1	太和田暁之
第3回	5/13	外皮系と生体防御機構2	免疫応答のしくみ2	加瀬政彦
第4回	5/20	消化器系1	口腔・咽頭・食道の構造と摂食嚥下のしくみ	太和田暁之
第5回	5/27	消化器系2	消化管の構造と機能、排便のしくみ	太和田暁之
第6回	6/3	消化器系3	肝・胆・膵の構造と機能	太和田暁之
第7回	6/10	呼吸器系	呼吸器系の構造、呼吸のメカニズムとその調節、肺気量分画、ガス交換のしくみと肺循環	加瀬政彦
第8回	6/17	総まとめ	総まとめ	太和田暁之
履修条件		特になし		
予習・復習		復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨		
テキスト		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 (医学書院) 解剖生理学ワークブック (医学書院)		
参考書・参考資料等		からだが見える(人体の構造と機能) (MEDIC MEDIA)		
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出 20%		

授業科目名： 人体の構造と機能Ⅱ 循環器系・腎泌尿器系・内分泌系・生殖器官 (Structure and function of the human body II)	必修：看1年	1 単位 15 時間	担当教員名：太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		コード：NSM102	
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
[授業の到達目標及びテーマ] 看護職に必須な人体の構造と生理機能についての知識を修得し、将来臨床で応用できるように以下を目標とする。 ①心臓と末梢循環系およびリンパ系の構造と機能について理解し説明できるようになる。 ②腎・泌尿器系の構造と機能、水・電解質バランスについて理解し説明できるようになる ③内分泌系の構造と機能について理解し説明できるようになる。 ④生殖器系の構造および性周期と受精から発生までのしくみを理解し説明できるようになる。			
[授業の概要] 人体の構造と機能Ⅰにひき続き、正常人体の構造と機能を講義形式で行なう。酸素および栄養素を含んだ血液を必要な部位に運搬する循環器系、血液から不要な物質を選択して体外へ排除する泌尿器系、それらの機能を制御し身体の内分秘系を司る内分泌系について学修する。さらに次世代を創生する生殖器系の構造と機能についても講義を行い、内分泌系との関連について理解を深める。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。 ----- キーワード:循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系			
[授業計画]			
回 数	日付	テ ー マ	内 容
第1回	4/9	循環器1	循環器系の構造、心臓の構造と機能
第2回	4/16	循環器2	心電図、心周期と心音
第3回	4/23	循環器3	末梢循環系、血圧と血液循環の調節、リンパ系
第4回	4/30	腎臓・泌尿器1	腎・泌尿器系の構造と尿の生成
第5回	5/7	腎臓・泌尿器2	水・電解質代謝の調節機構
第6回	5/14	内分泌1	内分泌系による調節、全身の内分泌腺と内分泌細胞
第7回	5/21	内分泌2、生殖器系	ホルモン分泌の調節・ホルモンによる調節の実際、男性生殖器、女性生殖器、性周期
第8回	5/28	総まとめ	
履修条件		特になし	
予習・復習		復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。	
テキスト		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 (医学書院) 解剖生理学ワークブック (医学書院)	
参考書・参考資料等		からだが見える(人体の構造と機能) (MEDIC MEDIA)	
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出 20%	

授業 科目名	授業科目名：	必修：看1年	1単位 15 時間	担当：太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
	人体の構造と機能Ⅲ（造血系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）（Structure and function of the human body Ⅲ）	コード：NSM103 実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識，Ⅰ倫理観とプロフェッショナルリズム，Ⅶ生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
看護職に必須な人体の構造と生理機能についての知識を修得し、将来臨床で応用できるように以下を目標とする。				
①血液の構成成分とそれらの機能を理解し説明できるようになる。				
②骨と骨格筋の構造と機能、およびそれらの連結などについて理解し説明できるようになる。				
③神経系の階層構造とそれぞれのシステムの特徴および機能を理解し説明できるようになる				
〔授業の概要〕				
人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱに引き続き、正常人体の構造と機能を講義形式で行なう。本授業では眼球、中耳、内耳などの感覚器が外界の変化に対応し、その情報を、中枢に伝える仕組みや、その情報をもとに判断し、行動を指令しそれを制御する神経系の構造と機能、行動の主体となる骨・筋肉系の役割について学修する。神経系においてはヒトの神経系に特有である高次機能についても言及し、骨髄で産生される血球系についても概説する。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：血液系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/1	血液1	血液の組成と機能、赤血球、血小板、血漿、血液凝固・線溶系、血液型	
第2回	10/8	血液2	白血球の種類と機能。免疫、アレルギー	
第3回	10/15	骨・筋肉1	骨の構造と形状、骨の連結、主な骨格と関節	
第4回	10/22	骨・筋肉2	筋肉の構造と筋収縮のしくみ、主な骨格筋	
第5回	10/29	神経系1	神経系の構造と機能、脊髄と脳	
第6回	11/5	神経系2	脊髄神経と脳神経、自律神経、上行・下行伝導路、反射	
第7回	11/12	感覚器系	特殊感覚（視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚）、痛み、内臓感覚	
第8回	11/20	総まとめ		
履修条件		特になし		
予習・復習		復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。		
テキスト		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院） 解剖生理学ワークブック（医学書院）		
参考書・参考資料等		からだが見える（人体の構造と機能）（MEDIC MEDIA）		
学生に対する評価		定期試験 80％ 課題の提出 20％		

授業 科目名	授業科目名：		2 単位 30 時間	担当：太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟 9)
	病態学Ⅰ（内科系疾病論） (Internal Medicine)	必修：看 2 年	コード：NSM104	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
病態学Ⅰでは、成人における内科疾患についての基本的な知識を学習することにより、臨床看護学の理解に役立てることを目的とする。本授業では主要な内科疾患について、病態をふまえた疾病の概要と内科臨床の基本について講義を行う。				
〔授業の概要〕				
病態学Ⅰで扱う成人疾患の知識は看護学の基礎として極めて重要であるが、その内容は広範囲で多岐にわたる。この授業ではすでに学修した人体の構造と機能、病理学の知識と関連させながら、講義形式により、臨床で遭遇する頻度の高い疾患を中心に疾患の原因・病態・診断・治療・予後について理解することを目指す。また治療中の患者看護に必要な臨床薬理的知識についても講義を行う。臨床症例を課題とした学習を併用することにより、単に教科書的な知識の習得にとどまらず、実際の患者に起こる様々な事態についての総合的に理解の必要性を認識させる。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：内科、病態生理、内科診断学、臨床検査、画像診断、内科治療学				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/11Ⅰ時限	循環器疾患 1	循環器疾患総論、心不全、高血圧	
第 2 回	4/11Ⅱ限	循環器疾患 2	虚血性心疾患	
第 3 回	4/18Ⅰ時限	循環器疾患 3	不整脈	
第 4 回	4/18Ⅱ限	呼吸器疾患 1	呼吸器疾患総論、呼吸器感染症	
第 5 回	4/25Ⅰ時限	呼吸器疾患 2	気道疾患	
第 6 回	4/25Ⅱ時限	呼吸器疾患 3	間質性肺疾患	
第 7 回	5/2Ⅰ時限	血液疾患 1	血液疾患総論、貧血・出血傾向	
第 8 回	5/2Ⅱ限	血液疾患 2	腫瘍性血液疾患	
第 9 回	5/9Ⅰ時限	消化器疾患 1	消化器疾患総論、逆流性食道炎	
第 10 回	5/9Ⅱ限	消化器疾患 2	消化性潰瘍、炎症性腸疾患	
第 11 回	5/16Ⅰ時限	消化器疾患 3	肝疾患、胆石症、膵炎	
第 12 回	5/16Ⅱ限	腎臓疾患 1	糸球体疾患・尿細管・間質性病変	
第 13 回	5/23Ⅰ時限	腎臓疾患 2	慢性腎臓病と急性腎障害	
第 14 回	5/23Ⅱ限	代謝疾患	糖尿病	
第 15 回	5/30Ⅰ時限	アレルギー疾患	アレルギー疾患、自己免疫疾患	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読。復習には配布プリント、教科書の見直しを推奨。		
テキスト		医学書院 系統看護学講座 成人看護学（2）呼吸器（3）循環器		
参考書・参考資料等		病気がみえるシリーズ(MEDIC MEDIA)		
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出状況 20%		

授業科目名： 病態学Ⅱ(外科系疾病論) Surgical management of diseases		必修： 看2年	単位数： 2単位30時間 コード： NSM105	担当教員名： 三島 敬[外科医師]、成田 都[整形外科医師]、渡 邊 倫子[心臓血管外科医師]、田中 教久[呼吸器外 科医師]、小林 正芳[脳神経外科医師]、佐塚 智和[泌 尿器科医師]、羽生 裕二 [婦人科医師](非常 勤講師室)
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 手術を主たる治療法とする外科系疾患の成因・病態・診断・治療・予後および周手術期管理法を学修する。				
〔授業の概要〕 本科目では、周手術期管理法および手術療法を主たる治療法とする疾患の成因・病 態・診断・治療・予後について学修す る。周手術期管理法には、手術侵襲と生体反 応、術前術後管理、創傷治癒と創傷管理、麻酔法などの内容が含まれる。ま た、手術療 法を主たる治療法とする疾患には、消化器系疾患(胃がん、肝がん等)、循環器系疾患(心筋梗塞等)、 呼吸器 系疾患(肺がん等)、運動器系疾患(変形性股関節症等)、脳神経疾患(くも膜下出血等)、泌尿器系疾患(前立腺がん等)、女 性生殖器 疾患(乳がん、子宮がん、子宮筋腫、卵巣腫瘍等)、外傷などの内容が含まれる。本授業は各領域専門医として実 務経験のある教員により行われる。				
キーワード：周手術期管理、創傷治癒、麻酔、滅菌、手術療法				
〔授業計画〕				
回 数		テ ー マ	内 容	担当
第1回	(4/10) Ⅲ	外傷・創傷治癒総論	創傷治癒、骨折	成田 都
第2回	(4/17) Ⅲ	脊椎疾患外科治療	外傷、変性疾患（腰部脊柱管狭窄症等）	成田 都
第3回	(4/24) Ⅲ	外科治療・外科総論	外科治療の特徴・対象、手術侵襲反応等	三島 敬
第4回	(5/1) Ⅲ	周術期管理	術前・術後管理等	三島 敬
第5回	(5/8) Ⅲ	呼吸器疾患外科治療	肺がん等	田中 教久
第6回	(5/15) Ⅲ	関節疾患の外科治療	変形性膝関節症、変形性股関節症等	成田 都
第7回	(5/22) Ⅲ	腎・泌尿器疾患外科	排尿障害、前立腺肥大症、前立腺癌等	佐塚 智和
第8回	(5/29) Ⅲ	外科的基本手技	滅菌法・消毒法、清潔操作、手術器具等	三島 敬
第9回	(6/5) Ⅲ	消化管疾患外科治療	食道がん、胃がん、大腸がん	三島 敬
第10回	(6/5) Ⅳ	女性生殖器疾患外科	子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫	羽生 裕二
第11回	(6/12) Ⅲ	脳・神経疾患外科	くも膜下出血、脳内出血、脳腫瘍等	小林 正芳
第12回	(6/12) Ⅳ	肝胆膵疾患外科治療1	肝・胆道がん	三島 敬
第13回	(6/12) Ⅴ	心疾患	虚血性心疾患等	渡邊 倫子
第14回	(6/19) Ⅲ	肝胆膵疾患外科治療2	膵臓がん	三島 敬
第15回	(6/19) Ⅳ	麻酔法	全身麻酔、局所麻酔等	三島 敬
履修条件		特になし。		
予習・復習		復習にはレジュメ・ノートの見直しを推奨。		
テキスト		特に指定しない。		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験、日ごろの学習態度により評価する。		

授業科目名 授業科目名： 病態学Ⅲ （高齢者・精神疾患論） (Gerontology and Psychiatry)	必修:看2 年	1単位 15 時間 コード：NSM106	担当：太和田暁之〔内科医師〕（研究室：図棟9）、高橋由美子〔精神神経科医師〕（非常勤講師室）、山本達也〔神経内科医師〕（研究室：仁戸名9）	
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識、Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅶ生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 複雑な現代社会において、精神疾患と人口の高齢化に伴う老年病診療の重要性はますます高まっている。そこで本講義では講義形式により、まず前半で精神医学の基本概念や、代表的な精神疾患の特徴やその治療法を学び、後半で、老化に伴った人体の生理機能の変化、老化を基盤とした疾病の病態・診断・治療について学修する。以下の項目を学生の到達目標とする。 ① 精神医学がどういうものか、何が対象で、どんな診察・検査を行うか説明できる ② 主な精神疾病について、その症状と治療法を説明できる ③ 老化とは何か、加齢に伴いどのような生理的变化が生じるか、説明できる ④ 高齢者に起こりやすい疾患を挙げ、その特徴や予後について説明できる				
〔授業の概要〕 人口の高齢化に伴い要介護者は増加しており、老年看護学の重要性はますます高まっている。身体的問題に加えて、精神状態の把握や対策が必要なことが高齢者の大きな特徴である。そこで本講義では講義形式により、まず前半で精神医学の基本概念や、代表的な精神疾患の特徴やその治療法を学び、後半で、老化に伴った人体の生理機能の変化、老化を基盤とした疾病の病態・診断・治療について学習する。精神神経科医師、内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード:精神疾患、統合失調症、老化、加齢、老年病				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第1回	4/15	精神医学総論、器質性精神病	精神医学総論	高橋由美子
第2回	4/22	気分障害、統合失調症	各疾患の症状と治療法	高橋由美子
第3回	5/13	神経症、人格・行動の異常	各疾患の症状と治療法	高橋由美子
第4回	5/20	発達・知的障害	各疾患の症状と治療法	高橋由美子
第5回	5/27	老年病学総論	老化とはなにか、加齢による生理変化、老年症候群	太和田暁之
第6回	6/3	脳血管障害	脳卒中の診断・病態生理・治療	山本達也
第7回	6/10	高齢者の低栄養	フレイル、サルコペニア、嚥下障害	太和田暁之
第8回	6/17	総まとめ		太和田暁之
履修条件		特になし		
予習・復習		復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。		
テキスト		系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（7）脳・神経 (医学書院)		
参考書・参考資料等		老年学 標準理学療法学・作業療法学シリーズ (医学書院) 病気がみえるシリーズ (MEDIC MEDIA)		
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出状況 20%		

臨床検査論 (Laboratory Medicine)	必修：看2年	1単位 15 時間	担当：太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		コード：NSM107	
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム,Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床検査は、疾病の診断や重症度・予後判定の際の客観的情報として重要であり、質の高いケアを行うためには看護師としてもその基本を学修する必要がある。実際の検査値についてその解釈、注意点や限界などについて理解し、説明できるようになることを到達目標とする。			
検体検査・画像検査・機能検査などの臨床検査は、疾病の診断や重症度・予後判定の際の客観的情報として重要であり、質の高いケアを行うためには看護師としてもその基本を学修する必要がある。本授業では、基礎的臨床検査への理解を深めることを目的とし、循環器系検査、呼吸器系検査、生化学検査、画像検査、環境測定法など、臨床で多用される臨床検査について、その結果の解釈、注意点や限界などについて講義を中心として一部実習も交えて学修する。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。 キーワード：血液検査、生化学検査、生体検査、病理学的検査、画像検査			
〔授業計画〕			
回 数	日付	テ ィ マ	内 容
第1回	4/11	臨床検査学総論	臨床検査の流れ、検体検査
第2回	4/18	血液検査	血液検査、出血凝固検査、骨髄検査等
第3回	4/25	生化学検査1	生化学検査全般
第4回	5/2	生化学検査2	生化学検査全般
第5回	5/9	免疫・血清学的検査	炎症マーカー、液生免疫、自己抗体、アレルギー等
第6回	5/16	微生物学・病理学的検査	感染症の診断と検査、細菌検査、病理組織検査
第7回	5/23	生体検査	心電図、呼吸機能検査、超音波検査、他画像検査
第8回	5/30	総まとめ	
履修条件		特になし	
予習・復習		復習として教科書や配布レジュメの見直しを推奨	
テキスト		系統看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)	
参考書・参考資料等			
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出状況 20%	

授業 科目名	看護学入門 Introduction to Nursing	必修： 看1年	1単位 15時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子[看護師]（教育棟 B307） 浅井美千代 [看護師]、石井 邦子 [助産師]、 市原 真穂 [看護師]、春日 広美 [看護師]、 木内 千晶 [看護師]、小宮 浩美 [看護師]、 佐藤 紀子 [保健師]、西村 宣子 [看護師]
			コード：NSB101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ．倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅲ．実践に必要な知識、Ⅶ．生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1) 現在のわが国の保健医療の現状と課題、看護の役割とその歴史的変遷について理解し、看護職に期待される役割について考えることができる。2)看護観の基盤となる人間、健康、生活、環境について理解を深めることができる。3) 看護が展開される多様な場の特性と、看護活動・役割機能について説明できる。4)看護学科の教育目標とカリキュラム構成を理解し、他学生や看護専門領域の教員らとのディスカッションを通して自分自身の大学生活、および将来展望を描くことができる。				
〔授業の概要〕 現代社会における保健医療の現状・課題と看護職に期待される役割を理解し、看護観の基盤となる人間、健康、生活に関する概念とその概念に関連する知識を学修する。また、看護の対象を生活者として幅広く理解するために、地域で生活する高齢者や高齢者を支援する立場の方から講義を受ける。さらに闘病記を通して実際の多様な闘病体験に触れ、看護の対象理解を深める。また看護活動の実際について、多様な看護実践現場とその場に応じた看護実践活動についての講義を受けたり、看護専門領域を訪問したりすることにより、理解を深める。これらを通して、自らの看護職としてのビジョンを描き、今後の学修の動機づけにつなげる。前半は主にオムニバス形式の講義形式とし、適宜グループワークを取り入れる。後半の看護専門領域訪問についてはグループワークを主とする。				
キーワード：看護の役割 人間 健康 生活 看護実践活動				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/10	ガイダンス 看護の役割とその 変遷	看護学科教育目標とカリキュラム構成について 看護の概念・役割とその変遷について講義し、現代の 看護について考える。	河部 房子
第2回	4/17	健康とは 人間の生活と健康	健康の概念や、健康の意義、生活環境と健康とのつな がりについて講義する。	佐藤 紀子
第3回	4/24	人間の生活の多様 性と生活支援	看護の対象者の生活の場の多様性と、その生活を支援 する多様な立場について講義する。 地域で生活する高齢者と、その人々を支える立場にあ る専門職の方から、日々の生活と具体的な支援につい て話を聞く。	春日 広美 (特別講義講師)
第4・5 回	5/1・8	看護の対象理解	闘病記を読み、患者の疾病の受容過程や生活の変化に ついて、当事者の立場からの理解を深める。自分の意 見をまとめた上で小グループによるディスカッショ ンおよび発表を行う。	河部 房子 春日 広美
第6回	5/15	多様な場の特性と 看護活動	看護が展開される場の特性と、その場に応じた看護実 践活動について講義する。さらに、専門看護師・認定 看護師の立場で活躍している専門職の方から、看護活 動の実際について話を聞く。	浅井美千代 (特別講義講師)
第7回	5/22	看護の領域訪問	本学の看護専門領域を訪問し、魅力を発見する。	浅井美千代、石井邦子、 市原真穂、春日広美、 木内千晶、河部房子、 小宮浩美、佐藤紀子、 西村宣子
第8回	5/29 (45分)	発表会	今までの学びと領域訪問から、これからの学びで大事 にしたいことを発表する	
履修条件		特になし		
予習・復習		各担当教員の指示による		
テキスト		特定のものはなし		
参考書・参考資料等		その都度配布する		
学生に対する評価		講義毎の小レポート、学習態度により総合的に評価する。		

授業 科目名	看護学原論 Principles and Practice of Nursing	履修年次： 必修：看1年	単位数： 1単位 30時間 コード：NSB102	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟 B307) 今井宏美〔看護師〕、小布施未桂〔看護 師〕、仁井田友紀〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅲ. 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1) 看護の概念や役割、看護の目的と看護の対象である人間についての理解を深めることができる。2) 看護するための 対象把握の思考過程と立場の変換能力について、理解できる。3) 看護過程を展開する思考過程について理解できる。 4) 具体的な事例を用いて、実際に看護過程を展開する思考を進め、対象の事実から看護の方向性と必要な看護援助を 見いだす思考過程について理解できる。				
〔授業の概要〕 看護観を育てる基盤となる概念・知識・考え方を学修する。まず、F. ナイチンゲール「看護覚え書」の読み取りを通 して、看護の本質と看護の目的を理解する。看護の基本的な構造と看護者の対象把握が看護実践に深く影響するとい うつながりを理解し、看護の対象である人間の見つけ方やそこから導かれる看護の方向性について、具体的な事例や 看護場面等を用いて、看護を展開する思考過程についての理解を深める。 本授業では、概念と実際の事例とのつながりを理解するために、講義とグループワークとを併用して授業を進める。				
〔授業計画〕				

授業 科目 名：	看護倫理 (Nursing ethics)	必修：看2年	1単位 15時間	担当教員名： 西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】
		編入3年	コード：NSB103	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム Ⅱ 実践に必要な知識 Ⅲ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 生命倫理の原則、看護職の倫理規定について説明できる 2. 看護の対象となる人間の権利、人権擁護など看護職に求められる倫理的責任と法的責任について説明できる 3. 看護実践上の倫理的問題に対して、原則に基づくアプローチ、系統的なアプローチを理解できる 4. 看護実践上で直面する倫理的問題、ジレンマについて、解決のために「なにをすべきか」自分の意見を述べる ことができる				
〔授業の概要〕				
看護倫理は、看護における「核」であり、人間の権利を尊重し、人間の生命・尊厳・生活に関わるものである。 本授業では、看護専門職として必要な行動の基盤となる法的責任、倫理の原則および職業倫理規範について学 習する。また、看護実践において発生しやすい倫理的問題をテーマごとに取り上げ、原則に基づくアプローチや 系統的な方法を用いて繰り返し検討する。さらに、グループディスカッションを通じて看護職に求められる倫理 的感受性を育成し、適切な判断と行動を行うための基盤を構築する。 臨床看護師としての実務経験に基づき2名の担当教員が講義を行う。				
〔授業計画〕 キーワード： 生命倫理、看護倫理、倫理原則、倫理的感受性、倫理的意思決定				
回 数	日 付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/6・Ⅲ	医療倫理と看護倫理の基本的 な考え方	倫理とは 生命倫理の歴史的変遷 患者の権利・生命倫理4原則・看護者 の倫理綱領	西村 宣子
第2回	10/20・Ⅲ	看護職の責務と倫理	専門職の倫理と看護者の責務 意思決定支援 看護実践上の倫理的概念	西村 宣子
第3回	10/27・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ（1） ケアの倫理	ケアの倫理 臨床での倫理的課題 グループディスカッションによる事例 検討①	富樫恵美子
第4回	11/10・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ（2） 生殖医療・安楽死・臓器提供	先端医療と制度をめぐる倫理 グループディスカッションによる事例 検討②	西村 宣子
第5回	11/17・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ（3） 認知症ケア	認知症ケアと倫理 グループディスカッションによる事例 検討③ 倫理的問題のアプローチ方法	西村 宣子
第6回	12/1・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ（4） 子どもの権利と倫理	小児看護と倫理 グループディスカッションによる事例 検討④	西村 宣子
第7回	12/8・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ（5） 人生の最終段階の看護	人生の最終段階の看護と倫理 アドバンスケアプランニング グループディスカッションによる事例 検討⑤	富樫恵美子
第8回 0.5	12/15・Ⅲ	まとめ	学習のまとめ	西村 宣子
履修条件		特になし		
予習・復習		授業の中で適宜提示する		
テキスト		小西恵美子：看護学テキストNiCE 看護倫理 改訂第3版 南江堂		
参考書・参考資料等		系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 他適宜関連図書を紹介する		
学生に対する評価		学習態度（20%）、学習課題レポート（50%）、最終レポート（30%）総合的に評価する		